

令和5年度 第1回磐田市行政経営審議会 議事録

日 時 令和5年9月28日（木） 18時30分から20時30分まで

出席者 委員14名

秋元富敏 委員、井上佳子 委員、大島たまよ 委員、岡本一夫 委員、
小出篤 委員、佐々木信仁 委員、鈴木敦之 委員、砂川利広 委員、
塚中丈久 委員、永井新次 委員、永井雅也 委員、深田研典 委員、
堀川知廣 委員、山越弘晃 委員
事務局（企画部長、政策推進課長、政策推進課グループ長、
政策推進課担当3名）

進行：政策推進課長

1 開 会

2 市長あいさつ

3 委嘱状交付

4 定足数の報告（委員総数14名中14名の出席により会議成立）

5 委員自己紹介

6 会長及び副会長の選出

7 議事

- ・磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和4年度取組結果報告及び
地方創生関連交付金の効果検証結果について
- ・意見交換「働く場所・雇用の創出について」

■磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和4年度取組結果について

委員	4ページの新規の磐田首都圏連携コーディネーター関係の設置で、マッチング事業で成立が7件ということだが、うまくいったマッチング事例はどのような内容であったのか。また、8ページの707人転入超過は良い傾向だと思うが、その理由が外国人の転入増加ということで、外国人の転入が何人くらいで、影響度がどのくらいあったのか。
事務局	転入は、日本人が4,331人、外国人は2,746人で、合計7,077人。転出した日本人は4,469人で、日本人は転出超過の状態である。外国人は1,901人の転出で、先の転入から差し引くと、転入超過となっている。日本人の転出が多いが、外国人の方の転入超過により、全体として転入超過となり、社会動態として707人増加という形になっている。
事務局	コーディネーター設置でマッチング成立7件の内容については、企業名は控えさせていただくが、新商品の販路開拓が2件、展示会の出展への御案内が2件、企業マッチングへ向けた訪問が2件、新商品開発のコラボが1件となっている。
委員	日本人は138人の転出増だが、これは以前と比べて増加傾向なのか、横ばいなのか。
事務局	年度によりばらつきがあり、続いている傾向ではない。今年の7月までのデータでは、日本人の転入が1,242人、転出が1,503人で、大きく提出増となっている。年度で統一した傾向が出ない中で、市としても傾向をつかんでいきたいと考えているが、難しい部分もある。
委員	10ページの移住定住の推進について、将来的に人口減少が見込まれる中で、それを補う外国人の方、外国人労働者が重要になってくるが、外国人への定住推進策として何かやっているのか。
事務局	外国人がこれからのまちの貴重な担い手・労働力のみならず、まちづくりの仲間にとんどん入ってきてもらわなければいけないという状況が来ていると認識している。 住み始めて、日本語習得のハードルが高いという声があり、担当部門としては、先ず日本語教育に力を入れて、地域での暮らしに馴染んでもらうことを定住の入り口として大切に、事業を進めていると聞いている。 あと情報共有で、広報紙を始め様々な媒体で外国語版を作って発信をしているが、外国人の方がネットワークとしてフェイスブックを多く使っているという話もあり、情報がしっかり届くような配慮をしていくことも継続して取り組んでいる。
委員	令和4年度の結果で、すでに令和8年度の目標値をクリアしているものもあり、そこは今後どういう方向性で考えているのか。 また、意見となるが、8ページの移住定住したくなるまちづくりで、JR磐田駅北口広場のイベント日数は目標値をクリアしているが、サッカーやラグビーの「試合時に人が多く行き交う御厨駅の周辺に、駐車場しかないという現状は、今

	<p>後の課題として取り組んでいったほうが良いのではないか。</p> <p>もう1点、17ページに、特別な支援を要する児童生徒が増えており、磐田市発達支援センターの臨床心理士の巡回相談の充実が今後の課題としてあるが、実際対応にあたる人材は不足していると思われるため、より具体的に考えながら取り組んで行くべきと考える。</p>
事務局	<p>目標の設定については、毎年ご意見をいただきながら検証をし、計画は必要に応じてローリングできるような形で運用しているため、参考にさせていただく。</p> <p>御厨駅についても、市としてもこれから手を打っていかねばと考えており、こちらも参考にさせていただく。</p> <p>発達支援の関係で、臨床心理士の確保がなかなか難しいというのは、委員のご指摘のとおりである。発達障害や発達に心配のある子が年々増えてきているのも実情で、対応するための人材確保は、委託している民間の事業者さんと一体となってやっていかなければならず、昨年度より（臨床心理士を）1人増員するなどして、力を入れて取り組んでいるところである。</p>
委員	<p>効果検証の4ページと5ページのコロナ禍での経済支援について所感を聞きたい。4ページ35番の紙のプレミアム商品券は、計画の25万冊に対して17万5,000冊で7割の達成で、5ページ44番デジタルクーポンは、計画1億円に対して8,000万で8割の達成率となっている。デジタルクーポンはおそらくスマホが使えない人は参加できず、同じ人が何回もやっているという状況が想像される。要は利用者数、ユニークユーザーで言うと、一部の少ない人しか利益を享受できていない。プレミアム商品券は、1世帯何冊ということで、広く享受されているところが差になっているのではないか。</p> <p>紙はすごくコストが掛かるし、デジタルもシステム構築のコストが掛かるが、これから維持管理だけで済むという点では、（デジタルのほうが）長らくやっていけることになるのではないか。ただ、デジタルクーポンのほうが少し使いづらかったのではという所感もあるため、どのような問題点を感じていて、広く使ってもらうためにどのように改善していくのか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり、デジタルクーポンについては、特定の方が多く使い、紙のプレミアム商品券はそれなりという結果になった。私たちが目指したのは、デジタルについては、事業者に対する支援とデジタルを進めていくことであり、お試しも含めて実施をした。プレミアムについては消費喚起ということで、そのような意味で二つを分けて実施した。</p> <p>ただ、デジタルについては、市民のお客様で使い方が分からないとお店に聞きに行き、列をなすことがあったため、少し困ったという声があった。事業の実施にあたっては、スマホ教室みたいなものを少し開いて見たりしたが、なかなか浸透しなかったことが課題としてある。デジタルについては、特に、使う人は徹底的に使うが、使えない方は敬遠したということが今後の課題であり、もっと分かりやすく使いやすいものを目指していかなければと考えている。</p>

	<p>あと、紙の商品券については、期待とは反対に7割しか売れず、意外と売れ残ってしまったっていうのが本音である。原因について庁内で話し合っただけだが、プレミアム率、お得感が少なかったことが原因の一つかも知れないという検証をしている。</p>
委員	<p>この後の議論にもなってくるかも知れないが、資料5ページ、起業の促進やサポート、雇用の創出、スタートアップ、起業はどこの自治体も力を入れてきている状況である。コワーキングスペースを拠点に、専門家による創業相談などにより起業をサポートしたという実績は出ているが、実際に起業をしたとか、成果に至ったとか、そういったところのデータ等はあるのか。</p>
事務局	<p>申し訳ないが、詳細な数字を手元に持ち合わせていない。委員のおっしゃるような形になって初めて成果という見方もあると思うため、また確認をさせていただきたい。</p>
委員	<p>15ページ、少子化対策のため公営の婚活事業を実施しているということで、これは本当に推奨して欲しい、もっとやって欲しいと思うが、男女で20名と人数が少なく、マッチング数8組。それで少子化対策という総合戦略の中からはいくと、マッチングしただけで良いかどうか。</p> <p>4ページにもあるが、中小企業の場合は、マッチング後、成立までである。(男女のマッチング後に) お子さんができたかどうかという結果がないと、少子化対策には繋がっていかないのではという気がするが、そのあたりの調査は行き届いているのか。</p>
事務局	<p>8件マッチング成立に至ったという報告は受けているが、結婚まで至ったかどうかというところまでの報告は、今のところ受けていない。</p>
事務局	<p>公営の婚活はコロナで数年間中断をしていて、令和4年度からまた再開をしている。今回多くの参加者もあり、非常に好評だったと聞いており、今後色々と考えて行かなければならないと考えている。静岡県も公営のマッチングサイトを作り、昨年から大々的に公営のマッチングをやっていて、市町もそれに協力をしている状況である。</p> <p>民間でもこのようなサービスは色々あると思うが、日本は結婚して子供をという流れがあるため、そのスタートとして大切にしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>ちなみに、公営のマッチングとは具体的にどのようなことをやるのか。</p>
事務局	<p>市が今回やったものは、イベント形式で集まり、バーベキューやボードゲームをきっかけに色々な会話をします。そのイベント1日を通して、これだけのマッチング成立という形になっている。</p>
委員	<p>取組結果の8ページ一番下、JR磐田駅北口広場のイベント日数ということで、KPIとしては129日間、令和2年の96日から129日延長したという報告がなされているが、イベント開催のそもそもの目的が何かというところを少し注視しないといけないのではと思いながら、資料を読んだ。</p> <p>磐田駅北口の賑わいをどう取り戻すかということでは感じたため、そのよう</p>

	<p>な目線で見えていくと、私の仕事柄、色々な同規模の自治体の地方都市、特に駅前を見ているが、大体同じことが起こっている。やはり駅前や市役所周辺に賑わいがなくなって、ドーナツ化現象が起きて、人の集積や賑わいが、大体バイパス沿いに移っているというような形である。</p> <p>自分が他でアドバイザーをしている宮崎県日南市は、油津商店街を復活させた実績があるが、そことの違いは何かと見た時、テナントが少な過ぎるという違いがあるのではと思う。自分は磐田駅からジュピロードを通して市役所まで毎回通っているが、やはり自分も経営者目線で見ると、なかなか入れるイメージがつかない。そこに入って、賑わいの一端を担うようなイメージがつかないが、この辺りのテナントとして入る物件数をおさえているのか。</p>
事務局	<p>先ず磐田の特徴は、店舗と住居が一緒になっているところが多く、テナントとして貸出してもらえないという実態がある。そのような中で、毎年商工会議所と市で物件調査をやっていると、数件貸しても良いと言ってもらっても、値段が少し高くて、なかなか成立に至らないという実態があり、そのような形になっている。</p>
委員	<p>13ページ、若い世代のところの中身を見ると、減っているのは合計特殊出生率と出生数、それ以外は頑張った結果が現れていると思う。例えば、待機児童ゼロ、高校生の早期医療受診、産後ケア事業、産婦人科助成の実施、つまり行政としてやれるところはやっている。</p> <p>しかし、それが出生数や合計特殊出生率に反映されないということが、結果的に言えるのではと思うが、全国同時スタートで、みんな出生率・出生数を増やそうとやっているが、綱引き状態の中で、どこかに若い人たちが一度に集まってくるとい状況がない中で、改善がなかなか見込めないのではないかと推測する。そのあたりについて、考えを聞いてみたい。</p> <p>また、長野県の小さな村や町で特殊な保育園の助成とか、アパートの無料入居等を実施する中で、子供の数が一気に増えてしまい、保育園がとても困っているという話も耳にしたりする。磐田市にそれをすぐに適用できるかわからないが、何かで1点突破していかないと壁を崩すことはできないと考えるが、いかがか。</p>
事務局	<p>若い方を集めるのは、なかなか難しいのではというご意見はまさにそのとおりである。そうかと言って、何もしなくて良いかと言ったら、そうではないと思っている。何もしなければ減る一方であるし、やれば何とか食い止めることができるかも知れないし、もしかしたら増えるかも知れないということで、先ず市としては、子供の数を増やしたい、若い方をぜひ集めたいという目標を持って進もうという気持ちでやっている。</p> <p>それから小さい町で出生率が増えているところがあるというのは、自分も調べて見たことがあるが、やはりそのようなところは、一点主義、他のものを止めてでもこれをやるのだということをやっている。では、それが磐田市には良いかというと、やはり規模感や何かが違うため、市民のニーズというのも捉えながら</p>

	やらなければいけない。それが本当に良いのかどうかというのは、まだ議論の余地があると思うし、何か突出すべきものも必要であると考えている。
委員	補助金の交付の資料で、地域再生エネルギー導入目標事業の調査が結構な金額となっているが、全て委託で行ったという解釈で良いか。あと、5ページ、まち・ひとしごと創生戦略会議の中に、ゼロカーボンシティの宣言を磐田市は採択しているが、環境に関する政策は盛り込まれていないのか。
事務局	地域再生エネルギー導入目標等調査は、全て業務委託となっている。環境施策のゼロカーボン事業の関係は、令和4年度計画づくりを先にやった上で、今後できることをやっていくという状況にある。この計画の中に個別の事業として入ってくるものが今はないのが事実だが、全庁で意識的に取り組んでいるところであり、今後、出せるものがあれば、事業の中に盛り込んで掲載をしていくような形になると思う。
委員	その目標年度は、具体的に決めているのか。
事務局	今ちょうど計画を作っており、その中に全て盛り込んでいく。それから、事業についても全部そのように盛り込んでいくということで策定を進めている。 ちなみにその前段階として今年やっているのが、7月から9月にかけて、前年に比べて電気料が落ちたら、抽選で何名の方に、LINE Pay 2,000円分が当たるという事業もやったりして、消費者の皆さんに関心を持ってもらおうというようなことを、少しずつやり始めているところである。
委員	7ページ目、高校生と市内企業との交流事業・見学バスツアーで、交流事業の参加企業が28社、バスツアーで行ったところが3社とあるが、どのような業種に行ったのか教えて欲しい。 また、16ページの1,000人当たりの不登校児童生徒数が、昨年度36人で静岡県下でも、磐田市はかなり高い推移をしていると思っている。不登校になった子供たちに対する対応で、新規に教育支援センターを開設しているが、予防的取組について、何かあれば教えていただきたい。
事務局	バスツアーは、NNP電子株式会社、浜松ホトニクス株式会社、株式会社アコーさんの3社となっている。交流事業の参加企業28社に関しては、資料を持ち合わせていないため、回答できずに申し訳ない。
事務局	不登校の予防について、非常に難しいことだと思っている。学校の先生方が予兆に気付いて、どのように声かけをするか、対応するかというところを頑張っていると思う。ただ、先生方も多忙で、不登校の児童生徒数が増え、その家庭や児童生徒への対応も担任の先生が中心となってやっており、その中で予防にも気を配ってというのはなかなか大変なことである。 不登校については、担任の先生以外のところでも対応できる仕組みを考えていかなければいけないのではという意見交換を教育委員会ともしたが、難しい課題で、まだ正解を言える状況ではないと思う。

委員	<p>7ページの高校生と市内企業との交流事業が少し気になっていて、これが地元就職やUターンに非常に綿密に関係してくるのではないかと思う。先ほど参加企業の名前を教えてもらったが、対象は高校生だけで、小中学生は対象とならなかったのか。</p> <p>そして、300人以上の生徒さんが参加して、その後、実際その中から入社まで至ったケースがどのくらいあったのか、その内容自体もある程度形式的なものなのか、ある程度時間を掛けて授業内のものなのか、課外希望者を対象としてやったものなのか、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>高校3年生の時に就職の意識が芽生えるため、その前に先ず興味を持ってもらうことを目的に、対象を高校1年生から2年生として募集を掛け、定員は20人程度、申込多数の場合は抽選というような形を取っている。その後、高校生の就職に繋がったかどうかに関しては、今資料を持ち合わせておらず、結果については分かりかねるため、回答できずに申し訳ない。</p>
事務局	<p>少し補足となるが、高校生のその後の結果は出しにくいところがある。企業からは何人ぐらいということは聞けるかも知れないが、学校からは個人情報のこともあり、なかなか情報をいただけないというのが現状である。</p> <p>ここには載っていないが、昨年初の試みとして、城山中学校の生徒を対象に、ヤマハ発動機の日高社長に講演をやってもらった。地元企業に関心を持ってもらうということで依頼をしたら、二つ返事でやっていただき、すごい反響があった。今後もこのようなことも考えて行こうかと思っている。</p>
委員	<p>資料とはあまり関係ないかも知れないが、発達障害がすごく増えている原因についてどのように考えているのか。</p> <p>また、医療費も増え続け、がんの人も増えているともよく聞くと、その対策についてどのように考えているのか。</p> <p>そして、お米の消費が減ると自給率も下がる、お米の消費が増えると自給率も上がると考えるため、お米の消費と自給率を上げるために何か対策はないか。</p> <p>それと、荒廃農地対策について、整備された大きな農場は法人が借りたりして、何とか埋まっていくが、家と家の間にある小さい畑はなかなか借手がなくて困っているような状況である。何か考えがあれば伺いたい。</p>
事務局	<p>病気、がんが増えているのはまさにそのとおりで、企業にも協力いただいた中で、働く世代の方の健康に力を入れ始めたいと考えている。やはり働く世代で、会社勤めとなると、なかなか休んでまで行かないという方が結構いるため、そこを少し重点的に取り組もうと考えている。</p> <p>それから、米の消費アップは、先ず学校給食で地産地消もっとアップしなければいけないのではないかと考えている。市は20%強くらい、県は40数%くらいの地産地消費率だが、それをもっと上げ、強化して行こうと考えている。</p> <p>荒廃農地も課題だと思っている。今、国の補助金がなくなり、県の補助金を頑張っていただけの方に出しているが、県の予算にも限りがあるため、一昨年くらいから市単独で出そうということで、徐々にではあるが対策を始めている。われ</p>

	われもそれは課題として認識しているため、歩みが遅いかも知れないが、少しずつでも頑張っってやっていきたいと考えている。
事務局	<p>発達障害は確かに増えているが、関わる人たち、例えば1歳6か月で初めて健診を受ける時に関わる保健師、保育園の保育士の先生方の発達障害に対する理解や意識がどんどん深まってきている。少し心配な場合は、先ず受診を勧めて、その後療育あるいは医療に繋げるといったシステムが確立されてきたことで、早期発見・早期治療に繋がっている。</p> <p>磐田市発達支援センターはあとという施設があるが、少し前までは3か月待ちの状態もあったため、発達障害をケアする人材を増強し、待機期間を少しでも縮め、早期の受診・診断というところに力を入れていきたいと考えている。</p>
委員	<p>20ページの安全安心と住みよさを実感できるまちづくりで、地震・津波対策のアクションプログラムの進捗率、令和8年度100%ということで、これは防潮堤が完成するというので、そのような方向になっているかと思う。</p> <p>昨年9月と、今年6月に台風に伴う線状降水帯の豪雨で、大規模な水害や土砂災害が市内でも起き、ここ数年、気象の変化で毎年そういうことが発生している。できれば、22ページの基本目標5の施策5-1に、県や市で進めている「流域治水」の考え方を取り入れた計画を総合戦略の中に具体的に明示することで、地域の皆さんが安心でき、力を入れてくれているということも分かるのではないかと思う。水害・土砂災害への対応についても、自治会を預かる人間からすると、もう少し具体的に入れたら良いのではと感じた。</p>
事務局	委員のおっしゃるとおり、検討していきたいと思っている。

■意見交換「働く場所・雇用の創出について」

委員	<p>20年ぐらい会社の採用を担当し、学生と毎年面談をしている。その中で、Uターンを希望する人たちが圧倒的に少ない、女性が少ないとは感じていない。どちらかと言えば、技術系の会社のため、どうしても技術に特化した男性社員を採用したいという（会社の）状況も入ってくる。その中でも営業や間接職も採用するため、女性の間接職での採用希望も2～3割はある。全体を10として5割ぐらいが技術系志望、半分が間接の事務系志望、そのまた半分の2割ぐらいが女性というような内訳になっていて、決して都会に残りたい人ばかりではないと思っている。</p> <p>それなのになぜということだが、採用枠が少なく、毎年10人ぐらい大卒を採用しているが、間接で採用するのは2～3人、技術系が7人というようなことがあって、どうしても男性の間接事務員を採りたがってしまう。この企業マインドが一番問題があり、最近は優秀な女性の大学生も応募してくれるため、昨年度は2名採用している。そういうところで男女問わず、やはり優秀な人材を企業側がしっかり採っていくというマインドの問題のほうが強いのではないか。そのあたりを今後はわれわれも変えていかなければいけないと感じている。</p>
----	---

	<p>シニア世代の働き続ける環境づくりだが、60歳定年、雇用延長で65歳ぐらいまでというのが企業では一般的かと思う。色々なスキルを持った方がたくさんいて、その年代になって仕事を終えて、また新たに学び直して、自分で好きなことをしてみたりするなど、色々な人がいると思う。やはり若者のスタートアップ事業だけではなく、専門的な知識を持っている人に収入となる個人事業のような形でもっと活躍してもらおうようなことが、もう少しあっても良いのではと思っている。そのための市の支援や人材バンク、スキルを必要としている人にマッチングしていくということが大事ではないかと思っている。</p>
委員	<p>大学で学び直しやリスキリングのようなこともやっているが、一人一人の課題に対応したことを大学で学べば良いと思っている。例えば、どこの大学にもある科目等履修生、先生に付いてゼミ形式で1週間に1回ぐらい、あるいは土日に自分都合の良い時に、先生と自分の学びたいことを集中的に研究しながら学ぶということが出来るため、そういうことを自分の学び直し、あるいは新しい技術を磨くために使ってもらえれば良いと思っている。それが大学が地域に貢献できることの一つだと思っている。</p>
委員	<p>若者、特に女性の地元就職Uターン就職が少ないということだが、雇用機会の均等も大事であり、実際に入ってから男女同権が実現されている組織なのか、男系組織になっていないだろうか、そこを是正していく動きがあるのだろうかというところを、行政としても注視していかなければいけないと思う。</p> <p>そのため、市内事業者の管理職の男女比率がどのようになっているかというデータを押さえてそれを高めていく、あるいは市内事業者の中で競わせていく、正常化するための競争意識を醸成していくことが必要ではないかと思っている。当然、市役所の管理職の男女比率というの、「隗より始めよ」で重要だと思う。</p> <p>それから、シニア世代がいつまでも生き生きと働き続けられるようにということだが、当然働き続けることで、医療費の削減、健康寿命の延伸もそうだが、何より生きがいができることはすごく大事なことである。私も人生の後半をどのように生きていこうかと考えるが、特にデジタルの世界は変化が激しく、その変化が早いだけでなく、加速度を持っていて、どんどん激しくなっている。そこで何が起きてくるかと言うと、単に技術が進歩する、生産性が上がるということだけでなく、そこで価値観の変容がまた生まれてくる。これが厄介なところで、歳を取ると、なかなか従来の組織にいられないとか、馴染めないとかいうことは、そのようなところから起きてくるのではないかと感じる。</p> <p>そのため、リスキリングと最近言われているが、実はスキルだけではなく、それと一緒に自分の人生観も変えていくということが必要だと思っている。広い意味で、一生学び続け、変わり続けていくというような意識の醸成が重要ではないかと思っている。行政でも生涯学習をやっていると思うが、そのような講座をシニアを迎える前にどれだけ訴求できるかというところが、今後必要ではないかと思っている。</p>
委員	<p>表の見方について、少し説明をしてもらいたい。</p>

事務局	<p>補足すると、64歳～69歳、70歳～74歳と上がっていくのはここが団塊の世代で、50歳～54歳、45歳～49歳のところに団塊ジュニアがいて、このような山ができていくという理解をしている。</p> <p>最初に説明した20歳～34歳のあたりが、男が多く女が少ないというのが他市に比べて顕著なところであるが、これは県西部エリア共通の課題になっていて、磐田市だけではない。この20歳～35歳までの男が多いというのは、大井川を渡って島田から静岡あたりになると、この差はないため、長い間かけて県西部の産業構造でできたものではないかと想定している。</p> <p>ただ、お子さんを産み育てていく世代のところで、男女差、女性が少ないのは少し気になったため、皆さんに問題提起をさせていただいている。高齢の女性が多く残っているのは、平均寿命の違いと想定され、団塊の世代からまた増え、右に移っていく形となっている。</p>
委員	<p>20歳～30歳ぐらいの人たちと女性が少ないのは、近隣、あるいは関東圏に出て行くからか。</p>
事務局	<p>関東圏と中京圏が大学の進学先として多くなっている。その後、帰って来ている・いないという数字をはっきりと追うことができず、行政の分析の弱いところだと思っているが、そこにそのまま残っているのではないかと想定している。</p>
委員	<p>自分は人事の採用に携わっていないため、人事部に話を聞いてきた。やはり、地元就職とかUターン就職に応募する学生は男女問わず減っている。ものすごく苦戦していて、新卒の採用が大変厳しい状況である。そのため、来てもらえるのであれば大歓迎ということで、地元出身でない学生を積極的に採用したりしていて、Uターンのハードルがかなり高くなっている状況である。</p> <p>それで、インターンシップをやると、実は女性のほうが多く来て、面接をすると女性のほうがみんな優秀という状況であるが、女性の管理職は指折り数えるくらいしかない。入社してからのキャリアプランが目指せず、彼氏が東京などにいると、すぐ結婚して行ってしまおうということがもう何十年続いている。</p> <p>市は中高生向けに企業社長の一日先生みたいなことをやって、地元への意識の醸成を図ることを大切にしているが、中高生にライフビジョンを描けと言ってもなかなか難しいのではないかと。結婚して子供を産む段階になると、都会よりも田舎と初めて地元の良さに気付くが、すでに生活の拠点は向こうにあり難しいということが、ジレンマとしてあると思う。</p> <p>最近、社内で女性のキャリア入社の方が増えている。一つは、メーカー勤めの旦那さんと一緒に移ってきたケースで、仕事ができる優秀な方が採れている。もう一つは、進学で中京圏・首都圏に出て行くけれども、20代後半になって人生について色々考えるようになるのか、地元の就職先を調べて、戻ってくるケースである。首都圏に出てしまった学生向けのインターンシップをやることも大切だが、早くに流出してしまっただけの人たち、例えば女性には、キャリア入社の門戸を広げて、あなたのスキルで活躍してみませんかというところを長いライフサイクルの中の選択肢として情報提供する、多く広げていくのもありかと思っている。</p>

	<p>それを一つの企業だけではなく、地域の企業、市役所も含めて、地元に戻るきっかけの場面や出会いを作るのも有効ではないかと思う。</p>
委員	<p>グラフを見て、多分どこの市でも同じような状況だと思った。自分も21歳の娘がいるが、やはり東京に憧れて、東京か名古屋どちらかに行くという話しをしていて、若い女性はそういう考えを一度は持つのではないかと考えている。</p> <p>その中で、先ほどの報告であったとおり、磐田市で企業の社長を招聘して講話をしてもらったり、色々な企業の工場見学をしたりと、そういったことを若い学生向けにもう少し早い段階からやっていく。劇的な改善とまではいかないかも知れないが、今やっていることを地道に続けていけば良いと思っている。</p> <p>会社の中でも女性社員を増やすために、実際効果があるかどうか分からないが、ロールモデル、輝いている女性を特集したりしている。</p> <p>あと、65歳以上の方も一生懸命頑張っているが、やはり製造業の現場だと、体力的に持たない、厳しいという意見もあって、そういう方々はやはり先ほどから出ている学び直しをして、他の自分を見つけるということも必要ではないかと思った。</p>
委員	<p>浜松の商工会議所が日本商工会から表彰されたが、意見交換の資料を見ると本当に明確である。20歳～24歳で女性が突然減って、これが10年ぐらい継続しているのは、Uターン、Iターンがもうないからということで、ここがまず一つの勝負どころである。</p> <p>その時に何をしたら良いかということで、浜松市がちょうどSNSで、地元出身者にラインで「浜松を忘れないで」、「いいことがあるよ」とまめに情報発信して、2017年度に始めて、2022年度までに755人を内定させたというようなことをやっている。</p> <p>県にも県立静岡がんセンターがあり、待遇もそれなりに良いが、看護師の離職者が後を絶たないという状況にある。辞める理由の一つとして、やはり余暇の刺激が非常に少ないということがあり、最近仕事よりも趣味、自分の人生を重視する方が非常に増えているという傾向もある。</p> <p>焼津港の近くに「焼津PORTERS」という昔漁協が使っていた倉庫をリノベーションした施設があり、新しい仕事を始めるようなコワーキングスペース、オフィス・フードコートを併設している。やはり磐田もまちの魅力づくりが必要ではないかと思った。</p> <p>元気な高齢者の問題で、いつまでも働けるとするのは、やはり働く能力のある方、企業も採用したくなる方、そこが前提になるのではないか。やはり人材バンクのようなものがあって、且つ商工会議所や商工会等とうまくマッチングさせていくというような仕組みが一つの考えとしてあるように思う。</p>
委員	<p>先ほど他の委員のお話にもあったが、私たちの採用実態も似たようなところがある。それに加え、業界自体が不人気ということで、なかなか苦労をしている。一方で、今から全体を考えた時には、先ほど高校生の交流事業のことを教えていただいたが、やっぱり磐田のこのポテンシャルの高さをしっかりと知っている人</p>

	<p>がどれだけいるのか、しっかりとそういうことが教え切れているのかということを感じ。そういう中で高校生だけではなく、中学生、小学生も早いうちから、磐田にはこのような企業や技術があり、住みやすさを含めて、こういうまちだということを書き込んでいくことによって、やはりUターンというところに繋がってくるのではないかなと思う。</p> <p>それと、若い方々が首都圏に就職するにあたっては、それなりの理由があると思うが、それは磐田のまちに魅力がない、働きたい会社がないというのは一般的な理由なのかも知れないが、本当にそうなのかなと言うと、一般論だと思う。そういうことを考えると、やはりその世代の若者たちと、そのような話をする機会を多く作って、生の声をしっかり掴む。そういった意味では、首都圏連携コーディネーターを磐田市として設置しているが、あれは産業の活性化のビジネスマッチング、繋ぐということだが、一方ではやはり首都圏にあるということ、一つ逆輸入するリクルートの機能も持たせると面白いかなと思う。磐田から出ていった方が首都圏で活躍されている方と同じ産業を繋ぐということ、親和性は高いと思うため、何かそこに工夫があると良いのではないかなと思う。</p> <p>あと、こういった施策に関しても、私たちが作るというより、若い世代が何をやりたいのかということをもっと声を拾って、どのような環境が揃えばあなたたちは磐田に戻ってきて頑張れるのかという部分で意見交換を深めていくと、わたしたちがここでイメージしていることとは違う何か、また形になってくるのではないかなという気がする。</p>
委員	磐田市は東京に事務所を作っているが、リクルートの機能はないのか。
事務局	東京の事務所は、民間企業に完全委託をし、そのスタッフに動いてもらっている。リクルートまではやっていないが、昨年初めて試みたのが、東京で磐田出身の20代～30代を集めて、市長が行って意見交換会をやってみた。やはりそこで、磐田は田舎だ、就きたい職業がなかったという意見があった。今その方々とSNSを通じてしばらくやり取りを続けながら、色々な情報を集めてみようという取り組みをしている。
委員	<p>他の委員の話聞いて、もうヒントが出ているように思った。19ページの4-2、磐田高校生まちづくり研究所の実施があるが、実は2～3年前にまちづくりシンポジウムで、女子高校生が一人いて、その考え方に非常に感動した。</p> <p>高校生まちづくり研究所は、市内6校中3グループ、62名が参加してやっているということで、これをもっと広く高校生にPRして、自分でまちづくりに参画する。高校生の場合は市外から来ている生徒もいると思うが、自分たちが作ったまちであれば帰ってくるし、よその人も住むようになると思う。そのため、将来的に見て、例えば地元就職やUターン就職が少ないことが課題とするならば、ここをヒントにしてもっと積極的に市が地域と協力し、企業と連携を図り、雇用の創出や働く場所の情報提供を行っていく。これを拡大していけば、子供たちが自分たちの考えでつくったまちに帰ってきて、そこで働き、暮らすというところに繋がるのではないかな。</p>

委員	他の自治体でもこのような会議の委員をやらせてもらっている。ある自治体で、参考人として高校生を招待して、そこで大人たちがどのような議論をしているかを聞いてもらう。それで、場合に応じて、発言をしてもらうということをやっている、かなり反響があった。磐田でもぜひやってみたらどうかと思った。
----	---

8 その他

9 閉会 審議会 終了（20：30）